

海外視察研修旅行シリーズ 1

ベトナム・カンボジアへの旅

日本旅館国際女将会

日本旅館国際女将会(長坂正恵会長)は9月8日から13日まで、観光経済新聞社(福田朋子社長)と一般財団法人日本ホテル教育センター(石塚勉理事長の支援のもとベトナム・カンボジア両国を訪問した。これまでの「旅館とホテル文化の国際交流シリーズ」(1~15回)、「世界のホスピタリティ体験シリーズ」(1~5回)に続く、「海外視察研修旅行シリーズ」の1回目として実施。昨年、会発足20周年を迎え、事務局体制を新ししたのに伴い、視察・研修の意味を強め、名称を改めた。

(2015年)。1982年に市場経済を導入して以来、都市部を中心に急速な経済成長を遂げてきた。一方では地方部との経済格差が広がり、その格差是正や地方経済の活性化が重要な課題となっている。対策として、海外からの支援を得て、豊富な文化遺産や自然資源を生かした観光開発を進めている。外国人旅行者は中国、韓国、日本、オーストラリア、台湾、アメリカ、フランスなどから約780万5000人が増加し、観光収入は約15億ドルに達している。ベトナムは1945年、フランスから独立した社会主義国家として誕生し、人口約9168万人(2014年)。

カンボジアは人口1513万人を有する立憲君主制国家で、1993年に現体制が成立。農業、観光、建設業、観光業が三大産業の中心を占める。観光業はGDPに占める割合が約15%に達している。観光業はサービス業、インフラ、資源保護に積極的な投資を行っている。2011年から3年連続で日本人人気の観光地ランキング1位の座に上り、観光客の増加が目撃されている。観光業は2020年に自国を訪れる旅行者数が750万人に達する見込みと発表している。

ベトナムが国家プロジェクトとして進めてきた「日越大学」の開学式典が9月9日、ベトナム国家大学ハノイ校、グエンバンダオ講堂で開かれた。二階後援院議員ら自民党訪越団をはじめ、両国政府関係者、大学関係者、JICA関係者など約400人が出席した。観光経済新聞社社長、日本ホテル教育センター理事長、黒沢由美子理事、黒沢由美子理事補佐の3人も参加した。

日越大学はベトナム国家大学ハノイ校を構成する7番目の大学として2014年7月に設立された。ベトナムの政府や産業界、日系企業で活躍する人材の育成を目指す。大学院修士課程6コース、院生5人(メジャー)が在籍している。2020年には大学の教育も始める。カリキュラム策定や、教員および学生の派遣、交流で日本の大学が協力する見通しだ。

参加者敬称略
長坂正恵(日本旅館国際女将会会長)、黒沢由美子(日本旅館国際女将会理事)、黒沢由美子(日本旅館国際女将会理事補佐)、石塚勉(日本ホテル教育センター理事長)、黒沢由美子(日本ホテル教育センター理事)、黒沢由美子(日本ホテル教育センター理事補佐)

成長する2国の現状を見る

ベトナム
豊富な資源を生かし
観光開発が進む
ハノイ市観光局の表敬



ハノイ市観光局を表敬訪問する日本旅館国際女将会の一行



ハノイ市観光局のチャン・ドク・ハイ副局長(左から2番目)ら



女将会の出席者



世界遺産のアンコールワット



アンコールワットの前で



ハノイ近郊のタムコック川(川下り)



アンコールトム



ハノイ・ホアンキエム湖

観光の中核を担う二つの世界遺産カンボジアは人口1513万人を有する立憲君主制国家で、1993年に現体制が成立。農業、観光、建設業が三大産業の中心を占める。観光業はGDPに占める割合が約15%に達している。観光業はサービス業、インフラ、資源保護に積極的な投資を行っている。2011年から3年連続で日本人人気の観光地ランキング1位の座に上り、観光客の増加が目撃されている。観光業は2020年に自国を訪れる旅行者数が750万人に達する見込みと発表している。

ベトナムが国家プロジェクトとして進めてきた「日越大学」の開学式典が9月9日、ベトナム国家大学ハノイ校、グエンバンダオ講堂で開かれた。二階後援院議員ら自民党訪越団をはじめ、両国政府関係者、大学関係者、JICA関係者など約400人が出席した。観光経済新聞社社長、日本ホテル教育センター理事長、黒沢由美子理事、黒沢由美子理事補佐の3人も参加した。

日越大学はベトナム国家大学ハノイ校を構成する7番目の大学として2014年7月に設立された。ベトナムの政府や産業界、日系企業で活躍する人材の育成を目指す。大学院修士課程6コース、院生5人(メジャー)が在籍している。2020年には大学の教育も始める。カリキュラム策定や、教員および学生の派遣、交流で日本の大学が協力する見通しだ。